



salut

VOL.104

私はひとり我がために
法を説きたまふ。余人
のためにはあらず。
龍樹『大智度論』より

應典院寺町倶楽部主催事業

いのちと 出会う会

毎月第3木曜日(8月・12月・1月休会)
＜應典院研修室＞
参加費／一般¥1,000
應典院寺町倶楽部会員・学生¥700(お茶菓子付き)

7月21日(木) 18:30～20:00
第151回「波瀾万丈の人生からの気づき」
話題提供者：宮川奈緒美さん(一般社団法人HPC代表理事)
幼少期から親戚や知人の家に預けられ転々とする生活。小中での転校はなんと9回！小学生からアルバイトと家事に追われる日々。中2で母に引き取られるが高校は中退。大学検定をうけ英国に留学。18歳で1度目の結婚、19歳で大学医学部受験、大学1回生で会社設立して大成功。社員100名以上になり19歳で年収5000万！そんなときに阪神大震災に、そして詐欺で10億の負債を抱えることに…。

キッズ・ミート・アート2016

アートに潜む「インファンス」(「言葉にならないもの」と「子ども性」の二つの意味がある)を捉え直すことをテーマに、2日間 にわたってワークショップやコンサートを開催します。

8月27日(土) 10:30～16:00(両日10:00受付開始)
28日(日) 10:30～16:00
参加費／各プログラム ¥300(お1人)
会場／バドマ幼稚園・浄土宗應典院
ファシリテーター／
栗山誠(こども・アート・あそびの研究室)、村上佑介(彫刻家)、弘田陽介(教育哲学者)、山田千智(ピアニスト)他
出 店／みっちー食堂 他
共 催／城南学園大阪総合保育大学・総合保育研究所
大阪城南女子短期大学、バドマ幼稚園
問合せ／TEL 06-6771-7641(應典院事務局)
※詳しくは特設ホームページhttp://bit.ly/kma_2016をご参照ください

應典院寺町倶楽部共催事業

上田假奈代・APM「詩の学校」

お盆編「それから」
墓地で詩をつくり朗読します。身近な人を亡くされた方やしみみお盆を過ごしたい方、詩をつくるなんて何年ぶりという方も、お気軽にご参加ください。
8月4日(木) 18:30～21:30
参加費／¥1,000(経済的にしんどい方は無料で開催です)
会場／大蓮寺
問合せ／poemschool@kanayo-net.com
※筆記用具、ノートはご持参ください。

應典院寺町倶楽部協力事業

詩の学校

詩ってどうやって、つくるんだらう。ひとりで詩を書いているけど、誰かに読んでもらいたい。そんなあなたのための「詩の学校」です。

7月6日(水) 19:00～21:00
参加費／¥1,000
会場／研修室B
問合せ／poemschool@kanayo-net.com
※筆記用具、ノートはご持参ください。

大阪吃音教室

吃音を治すことよりも、吃音と上手につき合うことを目指します。毎週金曜日に、実技ワークショップや講義など様々な形式で開催しています。

7月 1日(金) 18:45～21:00
8日(金) 18:45～21:00
15日(金) 18:45～21:00
22日(金) 18:45～21:00
8月 5日(金) 18:45～21:00
26日(金) 18:45～21:00

参加費／¥300(初回のみ¥2,000)
会場／研修室B
問合せ／072-820-8244(伊藤)

ポタラ・カレッジ

ドライ・ラマ法王直系の正統なチベット仏教を日本国内で本格的に学び実践するため、その拠点として設立された団体です。チベットの伝統教学に則した立場を堅持しながら、現代日本の状況に合わせた分かりやすい講習を行っています。

7月24日(日) 11:00/14:00
8月28日(日) 11:00/14:00
参加費／¥3,000
会場／研修室B
申込み／http://www.potala.jp
問合せ／03-3251-4090(ポタラ・カレッジ東京センター)

岸井大輔の基礎戯曲講座

劇作家岸井大輔が考えた、独断と偏見による、これだけは読んでおきたい戯曲9本を、1本ずつ読んでいく基礎戯曲講座。毎回、事前に課題となる戯曲を読んでいただきます。講義があり、それからみんなで話します。

第1回 課題：シェイクスピア「ロミオとジュリエット」
7月10日(日) 19:00～22:00
第2回 課題：シェイクスピア「ロミオとジュリエット」
7月11日(月) 19:00～22:00
第3回 課題：イブセン「野鴨」
7月12日(火) 19:00～22:00
第4回 課題：プレヒト「ガリレオの生涯」
8月31日(水) 19:00～22:00

参加費／
アーティスト(自己申告制) 1回¥1,000 10回通し¥5,000
アーティスト以外 1回¥2,000 10回通し¥10,000
別途¥500(茶菓子代)
会場／研修室B
問合せ／TEL 06-6771-7641(應典院事務局)

「大阪高校演劇祭」

Highschool Play Festival(HPF) 2016

7月21日(木) 関西創価高等学校
22日(金) 箕面・豊島高等学校
23日(土) 清風南海高等学校
24日(日) 鶴見商業高等学校
25日(月) 枚方なぎさ高等学校
26日(火) 休演日
27・28日(水・木) 淀川工科高等学校
29日(金) 山田高等学校
30日(土) 咲くやこの花高等学校
31日(日) 大阪産業大学附属高等学校
8月 1日(月) 箕面東高等学校
2日(火) 工芸高等学校

各高校18時30分より開演
※ただし7月28日の公演に限り、開演時間が異なります。
料 金/カンパ制:中高生¥500 一般¥1,000
問合せ/090-3990-7360(古川)

應典院公演情報

劇団ハレンチキャラメル「あばよ」

7月2日(土) 15:00/19:00
3日(日) 15:00
料 金/前売¥2,500 当日¥2,800
問合せ/090-4279-2048(島上)

劇団ハネオロシ「JACK」

7月 15日(金) 18:00
16日(土) 15:00/19:00
17日(日) 14:00/18:00
18日(月・祝) 12:00/16:30
料 金/前売一般¥2,500 前売学生¥2,000
当日¥3,000 高校生以下¥1,500(前売・当日共)
問合せ/haneoroshi@yahoo.co.jp

尾上和彦・アニュアルコンサート「八月の折り」

8月5日(金) 15:30/19:00
料 金/15:30の回¥2,000 19:00の回¥3,000
問合せ/090-4395-7948(堀内)

マイムアワー「ザ・マイムアワーvol.9」

8月7日(日) 13:00/17:30
料 金/¥1,500
問合せ/090-1226-0544(ちとう)

関西芸術座「ハツカネズミと人間」

8月 18日(木) 19:00
19日(金) 14:00/19:00
20日(土) 13:00/17:00
21日(日) 13:00/17:00
料 金/前売一般¥3,500 前売学生¥2,500
当日一般¥4,000 当日学生¥3,000
問合せ/kangei@os.urban.ne.jp

中川マリ「フラメンコライブ2016」

8月24日(水) 19:30
料 金/¥4,000
問合せ/06-6532-2906(アルテフラメンコ)



Outenin 應典院寺町倶楽部 TEL:06-6771-7641 FAX:06-6770-3147 info@outenin.com http://www.outenin.com

應典院寺町倶楽部は1997年5月に発足し、非営利市民活動の基盤づくりと活性化を促し、コミュニティの健全育成を図り、創造性豊かな地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています。寺院空間を活用した文化・芸術活動のサポーターでありパートナーである方々の参加を広く呼びかけ、随時入会を受け付けています。(会費・寄付は郵便振替口座「00900-2-122125」へお願いします)

＜編集後記＞

演じることは、「非現実の物語」を現実にもたらず技術です。浄土宗のおしえが伝える極楽浄土や阿彌陀仏の誓いは、現代人にとって縁遠く感じられるものかもしれない。しかし、このような時代だからこそ、信仰について演劇的な見地から学び、実践できることは多いように思うのです。(秋田)

紫陽花とかがつむりの季節が来た。梅雨となめくじの季節でもある。紫陽花やかたつむりは愛でられるのに、梅雨となめくじは嫌われる。小さい頃、なめくじを見て「背中に家(殻)がないだけで悲しいね」と感じた。その時の気持ち思い出すと、梅雨空の季節。私の大好きな季節(齋藤)

久々にドラマにハマりました。流行りのアイドルやミュージシャンが出ているわけではありませんが、脚本が練られていて、演技力の高い舞台俳優ばかりで、さすが物語に説得力がありました。先日、そのドラマが最終回を迎えました。(寂し)。(森山)

私にとっての宗教とは何か、を問い続けた3ヶ月でした。仏教を通して見つめなおすことによつて気付いたのは、無理に答えを出す必要はないということです。これからも、目に見えないものを感じることでできる人間でありたいと思います。(角居)

職員として過ごし始めて、あっという間に3ヶ月目に突入。サリュ発行に本格的に携わるのは、今号が初めてで嬉しです。Twitterの更新は、少し固いかな…わかりにくいかな…と時折悶々としておりますが、應典院は写真の撮り甲斐もあり、楽しませてもらっています。(沖田)



会員のつどいで
行く先を見通す

去る6月11日に、應典院寺町倶楽部のいわゆる総会にあたる、2016年度「会員のつどい」を開催いたしました。毎年必ず参加される会員の方に加え、今年をはじめ参加するという方も多く、例年よりも多くの出席者が應典院に集いました。最初に2015年度の総括を行った後、より民主的に市民に開かれたNPOとなるため、組織運営体制のあり方を検討する「新運営検討会議」の発足について提案し、皆さまからご承認をいただきました（詳しくは同紙interviewにて）。

後半は昼食をいただきながら、下は20代から上は80代までの幅広い世代で展望を語り合う、大変有意義な時間となりました。広報媒体としてのサリユへの思いや、事業に関する収支の開示と責任の共有、観劇に来られる方へのアピールの仕方、ターミナルケアや死生観を深める企画の提案など、年齢のちがいを越えて対話を深めました。多様な担い手である会員の皆さまと共に、次なる一手を探ってまいります。

去る6月16日、研修室Bで「いのちと出会う会」を開催し、記念すべき第150回を迎えることができました。話題提供者には、NPO法人日本こども支援協会代表理事の岩朝しのぶさんをお迎えし、「この子たちへ家庭の愛とぬくもりを!」と題してお話をいただきました。

この会の代表世話人をされている石黒大画さんを中心に、「生きること・老いること・病すること・死ぬこと」を見つめ直し、仲間と語り合うことで、人間の生とは何かをじっくりと考える場が育まれています。今後も、この貴重な場がさらに続いていくよう励んでまいります。

生と死のつながりを見つめる

百四十字に情景をのせて

應典院寺町倶楽部の活動について、應典院Twitterアカウント(@outenin)にてご紹介しております。2016年度からは毎日に「つぶやき」を更新しており、今まで以上に活動を知ってもらえるよう努めています。

イベントや公演の情報、発行物についてのご案内はもちろん、事務局の日常の様子が垣間見えるような、あるいは仏さまの存在に触れ入るような内容も扱っています。なるべく丁寧に想いを伝えることができるよう心がけてまいりますので、一度ご覧いただき、もしお気に入りつぶやきがございましたら、拡散にご協力いただけますと幸いです。

Interview

秋田光軌(應典院寺町倶楽部事務局長) 西島宏(應典院寺町倶楽部会長)

五代目事務局長と初代事務局長が、
市民と寺院の願わしい関係性を語る。
應典院寺町倶楽部が目指す姿とは。

秋田(以下A) 事務局長として大きな二歩を踏み出した気持です。当会が大事にしてきたのを見つめながら前に歩を進められるよう努めていきたいと思っております。これまでにさまざまな主体との協働を活性化し、仏教寺院における事業がより充実したものとなるよう、新運営検討会議を通して新たな基盤づくりに取り組むたいと考えています。

西島(以下B) 20年前の應典院再建当時、秋田光彦住職に「開かれた寺を作りた」と言われて事務局長をしていました。何をすればいいのかわかりませんが、孤獨だった記憶があります。開かれた寺の活性化どころか、荒野にひとりポツンと立っている状態だった。光軌さんあたり、むしろ再建までの数年間、秋田住職をはじめ、友人たちと侃々諤々議論していた頃を思い出しました。新しい理念に変わるべき過渡期に、会長として参画できていたのがうれしいです。

秋田(以下A) 事務局長として大きな二歩を踏み出した気持です。当会が大事にしてきたのを見つめながら前に歩を進められるよう努めていきたいと思っております。これまでにさまざまな主体との協働を活性化し、仏教寺院における事業がより充実したものとなるよう、新運営検討会議を通して新たな基盤づくりに取り組むたいと考えています。

西島(以下B) 20年前の應典院再建当時、秋田光彦住職に「開かれた寺を作りた」と言われて事務局長をしていました。何をすればいいのかわかりませんが、孤獨だった記憶があります。開かれた寺の活性化どころか、荒野にひとりポツンと立っている状態だった。光軌さんあたり、むしろ再建までの数年間、秋田住職をはじめ、友人たちと侃々諤々議論していた頃を思い出しました。新しい理念に変わるべき過渡期に、会長として参画できていたのがうれしいです。

秋田(以下A) 事務局長として大きな二歩を踏み出した気持です。当会が大事にしてきたのを見つめながら前に歩を進められるよう努めていきたいと思っております。これまでにさまざまな主体との協働を活性化し、仏教寺院における事業がより充実したものとなるよう、新運営検討会議を通して新たな基盤づくりに取り組むたいと考えています。

西島(以下B) 20年前の應典院再建当時、秋田光彦住職に「開かれた寺を作りた」と言われて事務局長をしていました。何をすればいいのかわかりませんが、孤獨だった記憶があります。開かれた寺の活性化どころか、荒野にひとりポツンと立っている状態だった。光軌さんあたり、むしろ再建までの数年間、秋田住職をはじめ、友人たちと侃々諤々議論していた頃を思い出しました。新しい理念に変わるべき過渡期に、会長として参画できていたのがうれしいです。

新...



秋田(以下A) 事務局長として大きな二歩を踏み出した気持です。当会が大事にしてきたのを見つめながら前に歩を進められるよう努めていきたいと思っております。これまでにさまざまな主体との協働を活性化し、仏教寺院における事業がより充実したものとなるよう、新運営検討会議を通して新たな基盤づくりに取り組むたいと考えています。

西島(以下B) 20年前の應典院再建当時、秋田光彦住職に「開かれた寺を作りた」と言われて事務局長をしていました。何をすればいいのかわかりませんが、孤獨だった記憶があります。開かれた寺の活性化どころか、荒野にひとりポツンと立っている状態だった。光軌さんあたり、むしろ再建までの数年間、秋田住職をはじめ、友人たちと侃々諤々議論していた頃を思い出しました。新しい理念に変わるべき過渡期に、会長として参画できていたのがうれしいです。

秋田(以下A) 事務局長として大きな二歩を踏み出した気持です。当会が大事にしてきたのを見つめながら前に歩を進められるよう努めていきたいと思っております。これまでにさまざまな主体との協働を活性化し、仏教寺院における事業がより充実したものとなるよう、新運営検討会議を通して新たな基盤づくりに取り組むたいと考えています。

西島(以下B) 20年前の應典院再建当時、秋田光彦住職に「開かれた寺を作りた」と言われて事務局長をしていました。何をすればいいのかわかりませんが、孤獨だった記憶があります。開かれた寺の活性化どころか、荒野にひとりポツンと立っている状態だった。光軌さんあたり、むしろ再建までの数年間、秋田住職をはじめ、友人たちと侃々諤々議論していた頃を思い出しました。新しい理念に変わるべき過渡期に、会長として参画できていたのがうれしいです。



1	2	3
4	5	6

- 1 劇団カメハウス「どろどろ一ふらすていつ」
- 2 遊劇舞台二月病「LEFT〜極名ベース到れる〜」
- 3 劇団冷凍うさぎ「ベチカとエトランジェ」
- 4 特別招致公演 ステージタイガ―『ランニングホーム』
- 5 協働プロデュース公演 無名劇団「無名稿 機械」
- 6 クロージングトーク

締めくくりの年を彩る
すでに前号でもお伝えしている通り、浄土宗應典院が再建された1997年度以来恒例の事業として開催してきた應典院舞台芸術祭「space x drama」を、2016年度の今回をもって終了し、舞台芸術祭の新しいかたちを模索していくこととなりました。去る6月12日に全5劇団の公演が閉幕し、20年の歩みに有終の美を飾りました。今回は、高校生と死を鮮烈にえがいた「劇団カメハウス」、連合赤軍による実在の事件を題材にした「遊劇舞台二月病」、独特の世界観を確かな感性で表現した劇団冷凍うさぎの若手3劇団が

20年の歴史を振り返ると、大まかに3つの時期に整理することができます。97年度からの第1期は、演劇のみならず、音楽やダンスといった様々なジャンルの舞台芸術が

最終日のクロージングトークでは、今回の優秀劇団に「遊劇舞台二月病」を選出されたことを発表いたしました。来年度、彼らと共に取り組む協働プロデュース公演をどのように開催するか、事務局に現在協議を行っています。

参加しました。さらに、この演劇祭に長年伴走してきた「ステージタイガ―」が、特別招致公演でパワフルに舞台を疾走。2015年度優秀劇団に選出された「無名劇団」は、陰鬱さの中にも1年間の成長をまざまざと感じさせる作品を披露しました。



観の変容を、多くの方が感じているのではないだろうか。「可能性の交差点」として数々の出会いをもたらしてきたspace x dramaにおいても、変わりゆく環境とのギャップは、参加劇団の激減というかたちで表れていました。

取り上げられた他、トークやワークショップ、展示なども行われていました。03年度からの第2期には、演劇に特化した演劇祭としてリニューアル。設立5年以内の若手劇団の支援を掲げて平日公演のみの開催とし、浄土宗應典院・應典院寺町倶楽部との三者協働プロデュース公演を担う、優秀劇団の選出をはじめ、また、そして08年度からの第3期では、設立年数不問で週末公演も含めた演劇祭として、劇団の世代間交流を意識して実施してまいりました。



幾度も方針の変更を行っていることからお分りのように、舞台芸術をめぐる状況もこの間大きく変化して、いま縮小化やユニットの増加カフェ公演の定着、なにより演劇に携わる若い世代の価値

移り行く時代のなかで、演劇をはじめとする舞台芸術がいかに創造的な表現を生み出し、社会と関係を結ぶことができるのか。仏教寺院における舞台芸術の意味や、社会に提示するべき意義を見直しながら、その変わらぬ課題をこれからも追求してまいります。新しいステージを迎える應典院舞台芸術祭でどのような空間(space)にどのような物語(drama)が紡ぎ出されるか、今後の展開に期待ください。

Column

「山口洋典前主幹の10年を辿る」 第2回 これは山口洋典さんへのお手紙かもしれない

社会活動としてのアート。それを寺院という場で育む実践にはじめて僕が携わらせていただいたのは2006年10月のこと。山口さんから、前述の実践の関西の集積地としての築港ARC(アートルイフセンター by Outenin)の構想を伺い、そしてすべての企画運営を文字通り「一任」していただき、スペースを開設したのが2006年12月。今思えば、この3ヶ月で僕は山口さんに「本気」を試されていたんだと思っています。それから2010年3月までの約3年半、山口さんはあくまで「伴走者」に徹された、その立ち振る舞いが僕の本気をさらにのびのびと多様な可能性へと導いてくださったんだと

還

アサダワタル(日常編集家)

1979年大阪生まれ。日常編集家。滋賀県立大学大学院環境科学研究所博士後期課程単位取得退学。「表現と日常」のステキな関係性を発明すべく、文筆と音楽を軸に様々な形態の創作・研究に動む。著作に「住み聞き」(筑摩書房)、「コミュニティ難民のスズメ」(木楽舎)、「表現のたね」(モックシュラ)。CDに「数珠、記憶、大和川レコード」(路地と暮らし社)など。これまでソロ演奏や様々なコミュニティで音楽プロジェクトを実施し、ドラマを担当する「SJO/SJO++」ではアルスエレクトロニカ2013サウンドアート部門にて優秀賞受賞。京都精華大学ポピュラーカルチャー学部非常勤講師。

感じています。山口さんは、もちろん「言葉」の人だと思いますが、同時に「身体」の人でもあります。社会活動の意義やコミュニケーション・人間関係の諸相を、様々なメタファーを通じて連投される山口さんの言葉は、時に難しいと感じることもあるけれど、しかし、時を終たのちにスーツと入ってくることもある。そのことは、僕らが出会っている時間に山口さんが投げかける言葉の数々の背後に、実は出会っていない時間にごそ様々な現場に身を曝しながら刻み続けている時間が存在することを想像させます。つまり、その「身体」があるから「言葉」が出て来る。だから僕も色々な経験を共有していくなかで、事後的に言葉に身体がついてくる体験に、ある意味喜びを感じてきたんだと思います。この身体と言葉の往還は、そのまま僕に、(実践のみならず)「研究」という道を示してくれることにもなりました。



撮影：今田修二

最後に率直な希望を。秋田光彦住職が継がれてきた数々の應典院にまつわる言葉、そしてこれから秋田光軌新主幹がきっと綴っていくであろう言葉とともに、山口さんが應典院を勇退されたこの時期にごそご自身が発せられる言葉を、もっと聞きたい、読みたいと、僕は思っていますよ。